

# 栃の木からの手紙

2018年 2月号



- 1月19日 ランプの宿つべつ 「ガイドツアー セミナー」
- 1月25日 オホーツク有機推進協議会
- 1月26日 農業士会GAP研修会
- 1月31日 HOSK 研修会
- 2月 1日 HOSK 総会
- 2月 1日 地域イノベーションとまちづくり

私達を取巻く環境と情報の中に何を見出すか？人それぞれの  
想い・活動がプラスに活性化されれば良い。何もセミナーに

参加する必要は無い、ふと目にした事、耳にした事…そんな他  
愛無い事でもその人の気持ちの持ち様で価値を見いだせる。  
そして、出来る事なら地域・社会の動きに自分の動きを重ねる  
事が出来たら良いよね。

現代の動きは、2015年9月に国連サミットで採択された  
「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核を成す  
「17の持続可能な開発目標」、SDGsを考慮する事。

2月 如 月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

- 4日： 立春
- 5日： 美幌町 議会報告・意見交換会
- 10日： 「冬の星座を観ない会」
- 14日： 「農泊シンポジウム」
- 16日： 新月 旧1月1日 正月元旦
- 19日： 雨水

年が明けてこの一ヶ月間で、先月号で掲載した「ビート  
堆肥」についての回答？を得ました。「まず3年間は堆肥  
化して下さい。他所の農家の屑が混ざっている可能性がある  
ので有機の畑には使わない方が良いでしょう。」これを受けて、  
「3年間の堆肥化をした後に状態を判断して一般の圃場  
で試験しようと思います。」

2月5日に「美幌町 議会報告会」が午後と夜の2回開催  
されます。

2月14日には、東京農業大学のオホーツクキャンパス

で左記のシンポジウムが開催されます。

昨年私は、自然農法の現場を実際に見て頂く想いで各種の活動を行いましたが、私が気付かなか  
ただけで社会では、地域資源に価値を見出し如何に地域を活性化していくのか？その実施に向け  
た試みが進んでいます。

～ 暦 と 気 象 ～

昨年は、6月24日が旧暦の閏5月朔日で、旧暦の5月が2回ありました。(会報2017年6月号では、気付かずに旧6月1日と記載間違えで済みませんでした。)

昨年を振り返りますと早い雪解けで春の植付け作業も順調に進みましたが、6月の降雨と低温で作物の生育が停滞しました。7月は猛暑、8月には早魃状態が続き秋播き小麦は小粒、早生系の芋も小芋が多い状況でした。自然農法の芋の極端な減収、黒大豆のハト害による全滅…。旧暦を考慮して植付け日程をずらしたら幾らか防げたのかもしれませんが。

オホーツク地域美幌町では、昨年末に降雨で融雪が進み、年が明けて何度か大雪が注意されましたが何故か少雪状態が続いています。

暦 と 気象 に関する俚諺の一つに次の様なものがあります。

皆さんもちょっと心に留めて今年1年の気象、古人の思いを推測してみませんか？  
目に見えない大切な事にこころを向けて見ませんか？

☆ 雨量 と 地下水

雨量 ⇒ 旧正月元日から最初の未の日までの日数でその年の雨量を予知

元日 が 未 ⇒ 1合水 早魃  
三日目が 未 ⇒ 3合水 早魃  
十日目が 未 ⇒ 1升水 大水

地下水 ⇒ 正月元日 から最初の未の日の日数

2018年平成30年戊戌			
旧正月	2月	16日	
最初の未	2月	20日	5日目
最初の未	1月	3日	3日目
雨量	5		
_____	=	_____	⇒ 早魃
地下水	3		

☆ 旧正月 と 立春

2018年	
旧正月	2月16日
立春	2月4日

立春より早い ⇒ 春が早い 秋が短い  
⇒ 立春と同じ頃 ⇒ 平年並み  
立春より遅い ⇒ 春遅い 秋が長い 夏短い

☆ 豊作

- ・小寒の日 (1月5日) 少し雨が降る ⇒ 麦 豊作
- ・小寒の日 (寒の入り) 雪降るは ⇒ 豊作
- ・寒中に雷鳴 ⇒ 豊作
- ・寒中にしばしば雨降る ⇒ 春 豊作
- ・早魃 に 凶作なし
- ・旧暦閏年に 凶作なし (2017年は閏5月で5月が二回あり閏年)

☆ 凶作

- ・日蝕 ある年は ⇒ 凶作多い
- ・月食 ある年は (1月31日) ⇒ 蔓作凶作

## 岡本 よりたかさんの投稿をシェアしました

### 山の恵み ⇒ ミネラルの循環



岡本 よりたか  
2017年12月21日

#### 「山の恵み」

今、自分が立っているその場所を GoogleMaps で上空に登ってみると、必ず近くに山がある事が分かる。

山は、植物が排出した酸素を私たちに供給するだけでなく、ミネラルを作り出し、地下水や川と共に提供してくれる。

空気を吸い、水を飲み、ミネラルをいただく。動物の肉は元々山からの恵みだったし、山の虫たちが平野部の植物を育てている。

つまり、私たちは、山の恵みをいただいて、命を育てているということだ。

自然栽培では、畑には「何も持ち込まず、何も持ち出さない」と謳う事がある。だが、それは不自然な話である。

野菜というミネラルを持ち出し、人がそれを享受する。そのミネラルは山からいただいたものだから、本来は畑に戻さなくてはならない。

動物が水を飲み、体内にミネラルを含んだ後に尿として排出する。動物が植物を体内に取り込み、排泄物として畑に戻す。あるいは、植物がミネラルを吸収し、植物自体が枯れてミネラルを戻す。これがミネラルの循環であった。

しかし、化成肥料による現代農業によってその循環が途切れてしまった。

ミネラルの循環を取り戻すためには、牛糞、鶏糞を使うのも1つの手段であろう。だが、それらも今や化学物質に汚染されており、それが食べ物を汚染していく。

であれば、山の枯葉を畑に戻してみてもどうだろうか。枯葉はミネラルを生み出す大切な有機物である。これを人間が享受した野菜のミネラル分だけ、畑に戻してあげる。

途切れてしまったミネラルの循環を完全に取り戻すことはできなくとも、畑の中のミネラルに関しては枯渇せずに済む。

難しいことではない。循環を考えるのなら、地球規模で考える。山の枯葉でも海の家藻でも良いのかもしれない。種に残ったミネラル、つまり米ぬかや油粕でもいいだろう。

大切なのはルールでも基準でもなく、自然界の仕組みを、人の手によって邪魔しないということであり、修復するという事だと、僕は思う。

これが僕の無肥料栽培、いやミネラル栽培である。

特定非営利活動法人 森のこだまさんの投稿をシェアしました。

1月20日 21:18 ·

特定非営利活動法人 森のこだま ー  
ガイドによる地域資源の商品化 ～畑を使ったガイドツアー～ 講習会いいね！

1月20日 1:41 ·

大きな学び・気づき・発見の講習会となりました♪

＼(^ ^)／

参加いただいた皆さま、ありがとうございます♪

m( \_ )m



1月19日13時より、「ランプの宿 森つべつ」において  
「ガイドによる地域資源の商品化 ～畑を使ったガイドツアー～」

の講習会が行われました。十勝の「いただきますカンパニー」の畑ガイドの活動を紹介して頂いた後に、4グループに分かれて畑ガイドのワークショップが行われました。

昨年私が行っていた畑の現状を観て貰う活動。農家が手を出さなくても良いのです。環境を提供するだけです。「畑ガイド」という新しい職業があってその方達はその畑という地域資源を訪れた人たちに紹介してその地域や農家の情報を発信して行くのです。

目からウロコの講習会でした。